

茨城・千葉・栃木・群馬で太陽光発電施設の ケーブル盗難注意喚起動画を作成

～全国の4割以上を占める金属盗難多発県で啓発～

日本損害保険協会関東支部委員会（委員長：本橋伸二 三井住友海上火災保険株式会社 コンプライアンス部 地域コンプライアンス部長）では、関東地方で太陽光発電施設での銅線ケーブル等の盗難が多発している状況を踏まえ、茨城・千葉・群馬・栃木県警と連携して注意喚起する動画を作成しました。

金属価格が高騰する中、全国的に銅線ケーブル、マンホールなどの金属の盗難件数が増加し、社会問題となっています。こうしたことから「盗難特定金属製物品の処分の防止等に関する法律」が6月13日に参議院本会議で可決・成立し、20日に公布されました。銅などの特定金属の買い取り業者に対して、取引引きの際に顔写真付きの書類で本人確認を義務づけることなどが盛り込まれています。

警察庁の発表によると、金属盗の統計を取り始めた2020年以降、金属盗難は増加傾向にあり、同認知件数は、2024年が20,701件（前年比27.2%増）と過去最高の被害件数となっております。北関東を中心に被害が多発しており、茨城県が3,628件と最も多く、千葉県2,001件、栃木県1,813件、群馬県1,650件と、この4県で全国の4割以上を占めています。

特に太陽光発電施設は、人目につきにくい場所にあることが多く、大量の銅線ケーブルが存在することから狙われやすくなっています。2024年の同施設での金属盗の認知件数は、茨城県が2,416件、栃木県1,225件、群馬県1,146件、千葉県1,120件で、4県の合計は5,907件と、金属盗全体のうち同施設での盗難が占める割合は約65%に及んでいます。盗難被害を防止するためには、太陽光発電事業者等による防犯対策が重要であることから、関東支部では4県の警察本部と連携して防犯対策を呼び掛ける動画を作成しました。

動画では、設備面での対策として「フェンスセンサー」「ワイヤーセンサー」などの警報装置の設置や、アルミケーブル導入とそのアピール、運営面の対策として、こまめな見回りや夜間監視体制の強化など、複数の盗難対策を実施することで、盗難しにくいと思わせる施設づくりを呼び掛けています。作成した動画は、損保協会や県・県警のホームページやYouTubeチャンネルに掲載して、各方面に幅広く周知して注意喚起を図るとともに、各県警および損害保険各社を通じて、太陽光発電事業者や県民の皆様に啓発します。

当支部では、今後も警察や関係各所と協力し、安全で安心な街づくりに向けた活動を推進していきます。

（※各県の数字は、各県警調べ）



動画画面1



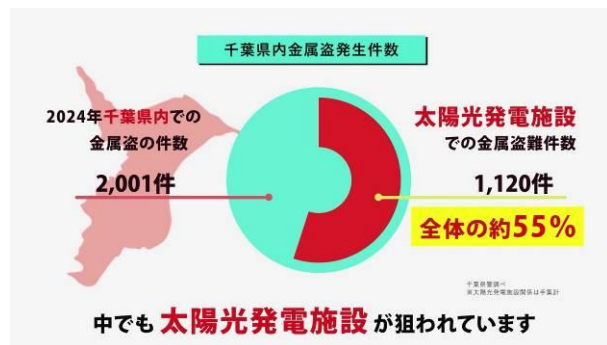
動画画面2



茨城県版

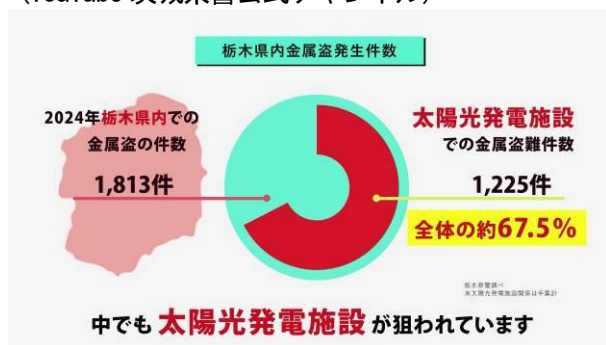
URL: https://youtu.be/e36kCa_dZsQ?si=ionX-dQuqzt5oYTG

(YouTube 茨城県警公式チャンネル)



千葉県版

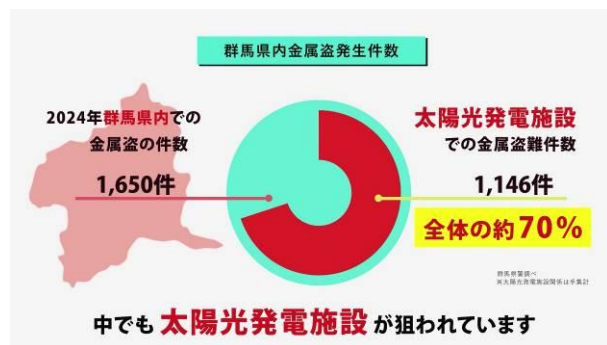
URL: <https://youtu.be/NyCQUXIr4bc>
(YouTube 損保協会公式チャンネル)



栃木県版

URL: <https://youtu.be/BTWqmS9bsGs>

(YouTube 栃木県警察生活安全企画課公式チャンネル『ルリちゃんねる』)



群馬県版

URL: https://www.youtube.com/watch?v=2FRjp_q-0v0

(YouTube 群馬県公式チャンネル tsulunos)